

日本共産党に流れた ソ連の赤いカネ

名越健郎
拓殖大学海外事情研究所教授



プーチンの強烈なソ連批判

今年十二月でソ連邦崩壊二十五周年になるが、ロシアのプーチン大統領が一月二十五日に行ったソ連批判が、ロシアで話題になっている。

プーチンは与党系の集会で、ソ連とレーニンに関する質問に「私はかつてソ連共産党員であり、共産党の暴力装置だったソ連国家保安委員会(KGB)で二十年近く働いた。共産主義思想がいつも好きだった」としなが

ら、「だが、平等、友愛、幸福を謳い、聖書にも似た共産主義思想の実践は失敗した。ソ連はその理想とは無縁だった」と酷評した。

プーチンは特に、レーニン、スターリン時代を糾弾し、「大量粛清を行い、皇帝を家族や側近もろとも処刑した」「十年間で一万人以上の聖職者を殺した」「レーニンはブルジョアと聖職者は多く殺すほどいいと言った」「第一次世界大戦ではドイツと平和を結んで戦線を崩壊させ、敗戦国に敗

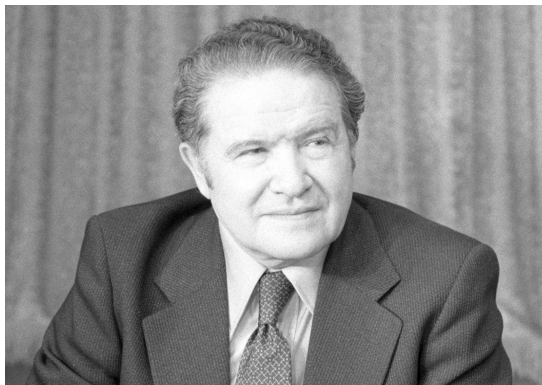
戦を喫した」と非難した。

「第二次世界大戦で資源を集中させてナチスドイツを打ち破った」ことは評価しながら、「結局のところ、ソ連は変化や技術革新を受容できず、経済を崩壊させた」と総括した。

KGB出身のプーチンはソ連に思い入れがあるとみられがちだが、近年、ソ連批判を強め、ロシアの版図を広げたエカテリーナ女帝など歴代皇帝を評価する発言が目立つ。今回の強烈な批判は、国民のソ連時代へ

の郷愁を解き放つ狙いもあろう。

もともと、現在のロシアでソ連時代を懐かしむのは、社会保障を享受した一部の高齢者だけで、ソ連は失敗国家という認識が支配的だ。最大野党・ロシア共産党も弱者を支持基盤とする一種の社民政党であり、ソ連共産党の流れを汲まない。



日ソ共産党会議予備会議のため来日したイワン・コワレンコ。1979年、代々木の日本共産党本部にて (写真提供/共同通信社)

一時は「労働者の理想郷」と呼ばれたソ連邦のあつけない崩壊は、国際共産主義運動に壊滅的打撃を与えた。一九八九年の東欧革命で東欧諸国は脱社会主義化し、欧州から社会主義国家が消滅した。七〇年代にユーロコミュニズムと呼ばれ、一世を風靡した西欧の共産党は分裂や消滅、党名変更を繰り返した。

共産党が躍進する先進国

アジアでは中国、北朝鮮、ベトナム、ラオスがいまなお一党独裁だが、中国はソ連を反面教師とし、改革・解放の経済発展に突き進んだ。習近平国家主席は内部講話でゴルバチョフ批判を展開し、ソ連崩壊の教訓を学ぶ学習用動画を作成させた。

北朝鮮は後ろ盾を失って核・ミサイル開発に突っ走り、政権延命を図る。ベトナム共産党では近年、書記

長を中央委員の自由選挙で選ぶなど、複数主義への動きがみられる。

日本共産党もソ連崩壊に際して、ソ連と対立してきたことを強調し、「歴史の進歩を妨げてきた巨悪が崩壊した」「もろ手を挙げて歓迎する」などとソ連消滅を歓迎した。「旧ソ連の横暴と三十年にわたって対決してきた」とし、「ソ連が最も恐れた自主独立の日本共産党」というスローガンも飛び出した。

今日、日本共産党は「庶民の味方」「原発ゼロ」「安倍政権の暴走ストップ」「増税反対」「米国追従反対」などを掲げて躍進。安倍政権と対峙する姿勢が評価され、選挙のたびに議席を伸ばしている。志位和夫委員長が野党連立政権「国民連合政府」構想を提唱するなど、野党連合のキャスティングボートを握りつつある。

先進国で共産党が躍進しているの

は日本だけで、グローバル・スタンダードと異なるガラパゴス現象と言えなくもない。日本共産党は、冷戦後の世界的な共産党忌避の潮流をうまくかわしたかみえる。民主党政権の体たらくも、共産党の支持率向上に貢献した。

だが、十九世紀の古色蒼然たるマルクス思想に基づく共産主義が、二十一世紀に有効とも思えない。共産党政治で成功した例も世界に存在しない。共産党に投票する前に、ソ連の流れを汲む日本共産党の「過去」や「恥部」も知る必要がある。

コミンテルンの恩恵

今日、アジアで社会主義国や共産党が存続するのは、いまは亡きソ連の恩恵だ。一九一七年にロシア革命を成功させたレーニンやトロツキーは、「世界革命」に向けて共産主義イ

ンターナショナル(コミンテルン)をモスクワに設立した。いわば革命の輸出機関で、各国の共産主義者が結集した。

レーニンは「欧州の革命なしにロシアで権力を維持するのは困難」とみなして西欧で革命運動を扇動したが、ドイツやイタリアでの工作は失敗した。逆に成功に繋がったのが、想定外のアジアだった。

コミンテルンは一九二二年、上海にコミンテルン中国支部を設置し、毛沢東、陳独秀ら活動家を集めて第一回中国共産党大会を開催。大会に集まった党員は十三人だったという。

その後、コミンテルンから顧問団が派遣され、数次の国共合作、国共内戦を経て、四九年に政権を掌握、新中国が成立した。育ての親のソ連共産党は消滅したのに、十数人の党員でスタートした中国共産党は今

日、党員数八千四百万人の世界最大政党になった。

ベトナム共産党も、コミンテルン活動家だったホー・チ・ミンらがモスクワの指示で三〇年に設立した。戦後の独立で北ベトナム主席となったホーは南部解放をテーゼに掲げ、七五年に武力統一を果たした。

コミンテルンは日本統治下の朝鮮でも共産党結成を指示し、二一年に高麗共産党が誕生した。しかし、内部対立や日本当局の抑圧で、数年で活動を終えた。現在の北朝鮮は、朝鮮北部に進駐した極東ソ連軍が、ソ連軍大尉だった金日成を指導者に据えてスターリン型国家として創設したもので、コミンテルン運動とは無関係だ。

コミンテルンがアジアで最も注目したのが、戦前の日本だった。天皇制の存在、貧しい労働者・農民、国ア労組付属国際労組基金」と称する秘密基金を設置し、各国の共産党に米ドルで資金提供した。

基金には、共産党が政権を握るソ連・東欧諸国が資金を拠出し、革命を経た中国も参加した。五〇年の拠出額は、ソ連が百万ドル、中国が二十万ドル、東欧五カ国が十六万ドルずつで、初年度は計二百万ドルだった。五一年は計三百二十三万ドル、六三年は計一千五百三十万ドルと年々増額された。

五一年の援助額リストによれば、①仏共産党(百二十万ドル)②フィンランド共産党(八十七万ドル)③伊共産党(五十万ドル)④伊社会党(二十万ドル)⑤日本共産党(十万ドル)——の順で、日本共産党が五位の秘密資金受け入れ国だった。五五年は日本共産党は六位で二十五万ドル、六三年は十九位で十五万

民の知的水準の高さから、社会主義革命の機運が揃っていると判断したようだ。二二年、野坂参三、徳田球一、荒畑寒村ら活動家が参加し、コミンテルン日本支部として日本共産党が設立された。したがって、日本で最も歴史の長い政党は、創設九十四年になる日本共産党である。

日本共産党に八十五万ドル

日本共産党は今日、一切言及しないが、戦前・戦後を通じ、ソ連が本部であり、兄貴分だった。戦前はコミンテルンから指示が届き、革命のテーゼもコミンテルンの指導で作成した。戦後もソ連の指示で武装闘争に転じたり、陰に陽に支援を受けた。両者の間の関係は、ソ連崩壊後に解禁された旧ソ連機密文書で明らかになる。

筆者は当時、時事通信記者として

モスクワに赴任しており、ロシア当局が九二年に開始したソ連共産党機密文書解禁を受けてモスクワのいくつかの公文書館を回り、日本関係の文書を手にした。そのなかには、日本共産党が戦後、ソ連から資金援助を受けていたことを示す文書が含まれていた。重要な情報はその都度、記事にし、帰国後の九四年、『クレムリン秘密文書は語る』(中公新書)という本にまとめた。

入手した文書のなかに、ソ連を中心としたコミンフォルム(共産党・労働者党情報局)が各国の共産主義運動支援の目的で実施した対外秘密援助に関する文書があった。スターリンは大戦中の四三年、米英など同盟国に配慮してコミンテルンを解散させたが、冷戦下の四七年、後継機関としてコミンフォルムを設立。五〇年にその傘下組織として「ルーマニ

ドルだった。その後、中ソ対立を受けて中国が脱退。東欧諸国も次第に撤退し、ソ連が大半を拠出した。秘密資金提供は、ゴルバチョフ時代の九〇年まで四十年間、続いた。

四十年の全資料は入手できなかったが、ロシア公文書館の専門家は資金援助総額は計五億ドルにのぼり、大口受容国は①仏共産党②伊共産党③米国共産党——の順だと話していた。

筆者が入手した資料は、日本共産党に対しては五一年に十萬ドル、五五年に二十五萬ドル、五八年に五萬ドル、五九年に五萬ドル、六一年に十萬ドル、六二年に十五萬ドル、六三年に十五萬ドルと、少なくとも八十五萬ドルが供与されたと記載している。当時の八十五萬ドルは、現在の貨幣価値で三十億円以上とみられる。これ以外の年にも提供されていた。

共産党のソ連からの資金受領も、政治資金規正法、または公職選挙法に抵触した疑いがある。

日本共産党は、九四年に導入された政党助成金の受け取りを拒否。「助成法は自分が納めた税金を支持しない政党に回すことになる強制献金制度」として撤廃を主張し、クリンナイメッセージを打ち出している。しかし、ソ連からの「赤い献金」は許されるのだろうか。

ソ連は冷戦期、友党だった野党第一党の日本社会党にも政治資金を提供していた模様だが、秘密基金のリストに社会党は記載されていない。旧ソ連機密文書によれば、社会党への献金はソ連専門の友好商社を介して行われ、貿易契約額を高めに設定し、商社が余剰分を社会党に献金する仕組みが用いられた。

たとえば、七二年二月二十九日付

た可能性がある。

別の文書から、秘密資金援助はソ連共産党中央委で決定されていることも分かった。たとえば六一年十二月十一日付の中央委国際部議定書は、「六二年に日本共産党に対し、十萬ドルの資金援助を提供すること」を決定。セミチャストヌイKGB議長に対し、引き渡しに責任を持つよう求めた。引き渡しに際しては、ルーマニアに本部を置く「国際労組基金」の援助であることを伝えるよう指示している。通達に沿って、六二年に在京ソ連大使館のKGB要員が日本共産党に十五萬ドルの現金を渡した可能性がある。

日本共産党への秘密資金援助は六三年が最後で、それ以降は記載されていない。日ソ両共産党が六三年の原水禁問題を契機に、路線対立を強めたためだろう。日本共産党は六〇

ソ連共産党国際部の文書によれば、社会党系の日ソ貿易協会の永井勝次郎会長がモスクワの外国貿易省を訪れ、「来る国政選挙で社会党を支持するため、ソ連が社会党系商社から繊維製品を一千万ドルで買い付け、うち十萬ドル分を商社が社会党に献金する」方式を提案した。中央委はこれを承認し、実行するよう通達した。

その直前、社会党の石橋政嗣書記長がソ連共産党国際部に書簡を送り、永井会長の訪ソについて「その目的が達成できるよう特段のご配慮をお願いしたい」と要請する書簡を送っており、社会党執行部が画策した可能性がある。

政治資金規正法違反を回避する苦肉の策だが、冷戦期の日ソ貿易で、ソ連が社会党系友好商社に便宜を図っていたことは業界では知られてい

年代の中ソ論争やベトナム戦争の狭間で、自主路線に転換する。

政治資金規正法違反か

日本の政治資金規正法は外国の内政干渉を防ぐため、外国企業や外国人からの政治資金導入を禁止。資金受け入れは違法行為となり、禁錮三年以下ないし罰金刑と規定されている。

主要国は外国人の政治献金を禁止しており、ヒラリー・クリントン米大統領候補は、自ら運営する財団が外国企業の献金を受けた疑いが浮上し、火消しに追われた。

わが国でも民主党政権時代の一年、前原誠司外相が、焼肉店を営む在日韓国人女性から五年で二十五萬円の寄付を受けていたことが発覚して外相を辞任。「二年たった五万円です」と話題になった。冷戦期の日本

た。その利益の一部が社会党に還元されていたとみられる。社会党への献金を示唆する公文書は、六〇年から七八年まで多数あった。

冷戦時代、革新政党である日本社会党と日本共産党は、「反核反戦外交」の裏でソ連と癒着し、違法献金を受けていた可能性が強いのだ。

「闇の男」

筆者がモスクワからソ連資金疑惑を報じた際、当時の志位書記局長は談話を発表し、

「仮にそういう資金の流れがあったとしても、それは党として要請したり、受け取ったりしたものではない」

「五〇―五五年は党中央が解体し、党は分裂していた。分裂した一翼が亡命先で『北京機関』なるものをつくり、ソ連、中国はこれを公認し、援助を与えていた」

「援助の対象となったのは、党に隠れてソ連とひそかに特別の関係を持ち、内通者の役割を果たした野坂参三、袴田里見（いずれも党から除名）らである」

などと釈明した。援助はあくまで野坂ら一部内通者の仕業で、党中央は一切関知していないとの立場だ。

共産党は独自に調査団をモスクワに派遣し、資料調査を踏まえて不破哲三が「赤旗」に執筆、『日本共産党にたいする干渉と内通の記録』と題する上下二巻の単行本にして発行。「ソ連資金なるものは、ソ連が五〇年代から六〇年代にかけて日本共産党への干渉工作を行った際に、干渉への協力者・内通者に送った資金であることを突き止めた」と強調した。

共産党の調査は、「社会党への資金供与はなかった」と説得力に欠ける声明に終始した社会党に比べ、公党と

あるソ連図書専門書店ナウカに対し、日本共産党の要請に基づき約四千五百万円相当の特別融資を行った」（六二年二月）

「ソ連は日本共産党中央委の病院のために、脳波計一台、顕微鏡用切断機一台、血管縫合器一台などの供給を求める日本共産党中央委の要請を承認した」（六一年八月）

「ソ連赤十字は『赤旗』の新任特派員に対し、毎月の生活費三百五十ルーブル、一時支度金三百五十ルーブル、支局の秘書・通訳費等を支出する」（七八年十月）

といった文書も解禁された。「赤旗」記者への便宜供与は七八年で、自主独立路線採扱後も対ソ癒着が続いていたことになる。

ソ連共産党国際部で長年、対日工作を担当したイワン・コワレンコは生前、「宮本指導部の日本共産党が

しての責任を感じさせた。だが、野坂、袴田をスケープゴートにした疑惑も残る。

内通者と断罪された野坂は党創設以来の指導者で、戦前はコミンテルン活動家としてモスクワや米国でも活動。大戦中は中国の延安に滞在し、戦後帰国して共産党を再建、「愛される共産党」を掲げてブームを呼んだ。一時、北京に亡命したあと、五六年から参院議員を四期務めた。五八年に野坂議長、宮本顕治書記局長体制が確立し、野坂が名誉議長に退く八二年まで続いた。

野坂はソ連崩壊後に公表された文書で、スターリン粛清時代に同志の山本懸蔵をソ連当局に密告して死に追いやっていた、と『週刊文春』がスクープ。百歳の時に除名処分を受けた。ソ連のスパイ説だけでなく、日本、中国、米国の情報機関とも内通

ソ連離れを図っていたことは事実だが、私はそれを子供が駄々をこねるようなものと解釈し、要請のまま援助を続けてきた」と話していた。ビッグブラザーのソ連は、自主独立路線を信じていなかった模様だ。

ソ連共産党の秘密資金文書が公表されたあと、最大の資金を得たフランス共産党やイタリア共産党は受領の事実を公式に認めて謝罪した。仏共産党は今日、「左翼戦線」を名乗り、「共産党」を前面に出すことはない。伊共産党は分裂を繰り返し、共産党としては存在しない。

不破は〇二年の党創立八十周年の演説で、「フランスの党もイタリアの党も、過去と真剣に立ち向かい、これを誤りとしてただす誠実な態度をとらなかつた。そのことが政局と重なって、九〇年代以後の政治的後退の大きな原因となつた」と分析した。

していた噂まである「闇の男」だ。

しかし野坂は党指導者時代、清廉潔白な人物と持ち上げられていた。山本密告の文書は事実で、資金援助の文書は事実と違うという主張は都合がよすぎる。もう一人の内通者、袴田元副委員長も、七七年に除名されるまで宮本の腹心で、その秘密活動を宮本が知らなかったとは考えにくい。

野坂らがソ連に内通し、秘密資金を受けていたとしても、党内の相互監視体制がそれを許さなかつただろう。日本共産党は、野坂らに一切の罪をかぶせて幕引きを図つたかみえる。

「赤旗」記者への便宜供与

ソ連による日本共産党支援の文書は、秘密資金リストに留まらない。「ソ連は六〇―六二年、東京・神田に

だが、「誠実な態度をとらなかつた」のはむしろ日本共産党ではなかつたか。

攻撃には強く、謝罪はしない日本共産党の体質は今日も変わっていない。（文中敬称略）

なごしけんろつ

一九五三年、岡山県生まれ。東京外国語大学卒。時事通信社でモスクワ、ワシントン支局、外信部長、仙台支社長などを経て現職。国際教養大学特任教授。著書に『ヨークで読む国際政治』『独裁者ラーチン』など。

5月講演会のお知らせ

講師 佐藤 優 (作家)
 演題 「危険な世界情勢を解析する」
 日時 5月27日(金)18時
 会場 かながわ県民サポートセンター
 304号会議室
 定員 90名 (要予約)

主催・問い合わせ
 自治調査研究会
 TEL.045-263-0055